



SDGs未来都市こおりやま

SDGs Future City Koriyama

～2030年 みんなの街を未来につなげるために～
こおりやま広域圏とともに

PHOTO: photo_booooy(郡山市観光協会公式SNSアンバサダー)@猪苗代湖



地方創生SDGs官民連携プラットフォーム



こおりやま広域圏内すべての市町村は、SDGsを共通言語として、地方自治体、企業、NGO・NPO、大学、研究機関等の広範なステークホルダーとのパートナーシップの深化、官民連携の推進を図るために発足したプラットフォーム「地方創生SDGs官民連携プラットフォーム」に参加しています。










「SDGs日本モデル」宣言

私たち自治体は、人口減少・高齢化など社会的課題の解決と持続可能な地域づくりに向けて、企業・団体、学校・研究機関、住民などとの官民連携を進め、日本の「SDGモデル」を世界に発信します。

- SDGsを共通目標に、自治体間の連携を進めるとともに、地域における官民連携によるパートナーシップを主導し、地域に活力と豊かさを創出します。
- SDGsの達成に向けて、社会的投資の拡大や革新的技術の導入など、民間ビジネスの力を積極的に活用し、地域が直面する課題解決に取り組みます。
- 誰もが笑顔あふれる社会に向けて、次世代との対話やジェンダー平等の実現などによって、住民が主役となるSDGsの推進を目指します。

こおりやま広域圏内すべての市町村は、社会課題の解決と持続可能な地域づくりに向けて企業・団体、学校・研究機関、住民と官民連携を進める「SDGs日本モデル」宣言に賛同しています。

SDGsについてもっと知りたい方は・・・

- 国際連合 広報センター 
- 内閣府「みんなで育てる地域のチカラ 地方創生」 
- ナマケモノにもできる アクション・ガイド 
- 外務省 SDGs関連ページ「SDGsとは？」 
- 日本ユニセフ協会 学校のための持続可能な開発目標ガイド 
- 環境省 SDGs関連ページ「SDGs活用ガイド」 
- 持続可能な開発目標 (SDGs) 推進本部 

郡山市 政策開発部 政策開発課

〒963-8601 福島県郡山市朝日1丁目23番7号
Tel: 024-924-2021 FAX: 024-924-2822
Email: seisaku-kaiatsu@city.koriyama.lg.jp
2020年3月



この印刷物は、環境にやさしいFSC®認証紙と植物油インキを使用しています。紙へリサイクル可。



SDGs (持続可能な開発目標) とは



「国連で決めた2030年までに世界をより良くするための目標」の事です。

2015年に国連サミットにおいて全会一致で採択された、2016年から2030年までの世界共通の目標です。

貧困、教育、気候変動、産業やジェンダーなど、17のゴールとそれぞれの下により具体的な169項目のターゲットがあります。

“誰一人取り残さない (no one will be left behind)” 社会の実現のために先進国も途上国もすべての国が関わって解決していく目標です。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS こおりやま広域圏

人口減少・少子高齢化社会において、誰もが安心して暮らせるようにするため、郡山市を含めた16市町村で連携し、広域的課題の解決を図ります。

SDGsの達成に向けても、16市町村が連携して取り組んでいます。

【こおりやま広域連携中枢都市圏】
郡山市、須賀川市、二本松市、田村市、本宮市、大玉村、鏡石町、天栄村、猪苗代町、石川町、玉川村、平田村、浅川町、古殿町、三春町、小野町



ゴール	内容	ゴール	内容
1 貧困をなくそう	1. 貧困をなくそう あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる	10 人や国の不平等をなくそう	10. 人や国の不平等をなくそう 各国内及び各国間の不平等を是正する
2 飢餓をゼロに	2. 飢餓をゼロに 飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する	11 住み続けられるまちづくりを	11. 住み続けられるまちづくりを 包摂的で安全かつ強靱(レジリエント)で持続可能な都市及び人間居住を実現する
3 すべての人に健康と福祉を	3. すべての人に健康と福祉を あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する	12 つくる責任つかう責任	12. つくる責任つかう責任 持続可能な生産消費形態を確保する
4 質の高い教育をみんなに	4. 質の高い教育をみんなに すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する	13 気候変動に具体的な対策を	13. 気候変動に具体的な対策を 気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる
5 ジェンダー平等を実現しよう	5. ジェンダー平等を実現しよう ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う	14 海の豊かさを守ろう	14. 海の豊かさを守ろう 持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する
6 安全な水とトイレを世界中に	6. 安全な水とトイレを世界中に すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する	15 陸の豊かさを守ろう	15. 陸の豊かさを守ろう 陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する	16 平和と公正をすべての人に	16. 平和と公正をすべての人に 持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々の司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する
8 働きがいも経済成長も	8. 働きがいも経済成長も 包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用(ディーセント・ワーク)を促進する	17 パートナリシップで目標を達成しよう	17. パートナリシップで目標を達成しよう 持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化
9 産業と技術革新の基盤をつくろう	9. 産業と技術革新の基盤をつくろう 強靱(レジリエント)なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る		

◎「ターゲット」について

SDGs17のゴールには、さらに具体的な目標を定めた169の「ターゲット」があります。目標を達成するための具体的な課題がターゲットであり、SDGsに取り組む上で重要な位置づけとなっています。それぞれの内容は右のQRコードから確認できます。



外務省 JAPAN SDGs Action Platform

「持続可能な開発」= 「将来世代のニーズに合ったまちづくり」が求められています。

MDGsからSDGsへ

- ◆MDGs（ミレニアム開発目標）は、2000年の国連ミレニアム・サミットでまとめられた2000年から2015年までの国際目標です。
- ◆MDGsは途上国の貧困や教育等の開発問題が中心で、先進国はそれを援助するという位置づけでした。
- ◆これに対しSDGsは開発面だけではなく経済面・社会面・環境面の3つの側面にすべての国が対応することを求められています。



◆貧困、初等教育、ジェンダー、乳幼児・妊産婦の健康など開発途上国を中心とした2015年までの8つの目標



◆MDGs残された課題に加え環境、気候変動、格差拡大などすべての国にとっての2030年までの17の目標



国連本部にSDGsに関する映像が投影されたときの様子(2015年) =UN Photo/Cia Pak

SDGsに関するこれまでの流れ

世界的な潮流

◆世界中のSDGsの流れに合わせ、日本政府もSDGs推進本部を設置し、誰一人取り残さないための取り組みを積極的に進めています。

【2015年】	
月日	事項
9月25日～27日	○ニューヨーク国連本部において、「国連持続可能な開発サミット」が開催され、193の国連加盟国がアジェンダ案（私たちの世界を転換する：持続可能な開発のための2030年アジェンダ）」に全会一致で合意 ○17の持続可能な開発目標と169項目のターゲットが記載される
【2016年】	
月日	事項
5月20日	○総理を本部長、全閣僚を構成員とするSDGs推進本部を設置 ○第1回会合において「SDGs実施指針」の策定に向けた総理指示
12月22日	○第2回SDGs推進本部会合を開催し、実施指針を決定
【2017年】	
月日	事項
6月9日	○第3回SDGs推進本部会合を開催。企業や団体等の先駆的な取組を表彰する「ジャパンSDGsアワード」の創設を決定
12月26日	○第4回SDGs推進本部会合を開催。「SDGsアクションプラン2018」を決定
【2018年】	
月日	事項
2月26日	○「SDGs未来都市及び自治体SDGsモデル事業」募集
6月15日	○第5回SDGs推進本部会合を開催。「拡大版SDGsアクションプラン2018」を決定

月日	事項
6月15日	○「平成30年度SDGs未来都市及び自治体SDGsモデル事業」選定（SDGs未来都市29都市、自治体SDGsモデル事業10事業） ○第6回SDGs推進本部会合を開催。「SDGsアクションプラン2019」を決定

【2019年】	
月日	事項
2月20日	○「SDGs未来都市及び自治体SDGsモデル事業」の募集
6月21日	○第7回SDGs推進本部会合を開催。「拡大版SDGsアクションプラン2019」を決定
7月1日	○「令和元年度SDGs未来都市及び自治体SDGsモデル事業」選定（SDGs未来都市31都市、自治体SDGsモデル事業10事業） ⇒郡山市SDGs未来都市・自治体SDGsモデル事業選定
8月30日	○「郡山市SDGs未来都市計画」策定
12月20日	○第8回SDGs推進本部会合を開催。「SDGs実施指針」の改訂および「SDGsアクションプラン2020」を決定 ○まち・ひと・しごと創生総合戦略 第2期戦略(2020～2024)「地方創生SDGsの実現などの持続可能なまちづくり」 【目標】 「SDGsに取り組む自治体の割合」▶60% 「SDGs未来都市選定数」▶90都市⇒210都市 「地方創生SDGs官民連携プラットフォーム」▶マッチング件数1,000件 「地方創生SDGs金融に取り組む自治体」▶100団体

【2020年】	
月日	事項
1月10日	○「地方創生SDGs国際フォーラム2020」に郡山市長がパネリストとして参加

「SDGs実施指針改定版」と「SDGsアクションプラン2020」

◆2019年12月内閣総理大臣を本部長とする「SDGs推進本部」において、2016年に決定した指針の改定版「SDGs実施指針改定版」と「SDGsアクションプラン2020」が発表されました。

『SDGs実施指針』の8分野に関する取組を更に具体化・拡充

- ①あらゆる人々が活躍する社会・ジェンダー平等の実現
- ②健康・長寿の達成
- ③成長市場の創出、地域活性化、科学技術イノベーション
- ④持続可能で強靱な国土と質の高いインフラの整備
- ⑤省・再生可能エネルギー、防災・気候変動対策、循環型社会
- ⑥生物多様性、森林、海洋等の環境の保全
- ⑦平和と安全・安心社会の実現

『SDGsアクションプラン2020』

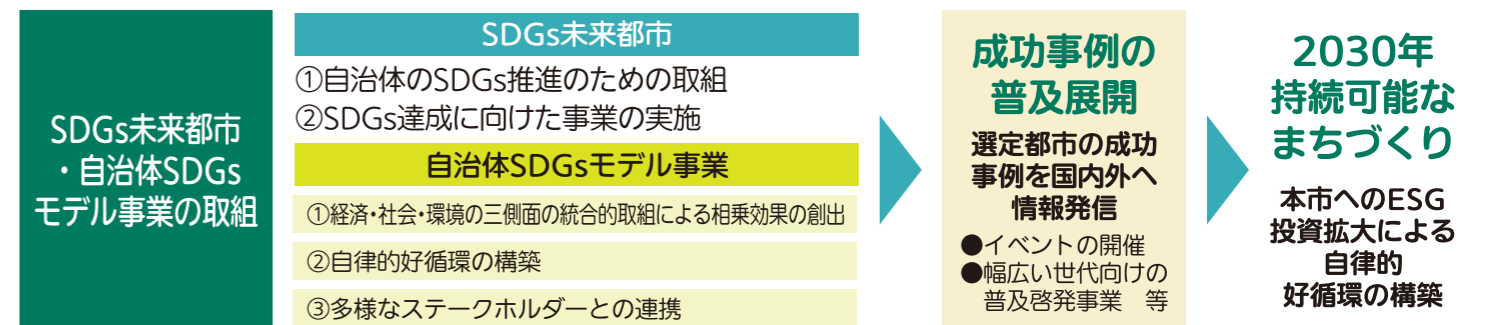
■国内実施・国際協力の両面において、次の3本柱を中核とする「日本のSDGsモデル」の展開を加速化していく。

企業向け	I. ビジネスとイノベーション～SDGsと連動する「Society5.0」の推進～
自治体向け	II. SDGsを原動力とした地方創生、強靱かつ環境に優しい魅力的なまちづくり
若者・女性向け	III. SDGsの担い手としての次世代・女性のエンパワーメント

SDGs未来都市とは？

国連で決めた国際目標を達成するために積極的に行動する都市

- ◆内閣府は2018年から日本国内でSDGsの達成に向け先導的に取り組む地方自治体を「SDGs未来都市」として支援することを目的に公募を始めました。
- ◆郡山市は2019年7月1日「SDGs未来都市」に選定されました。2019年度現在60の自治体が未来都市として選定され、SDGsに積極的に取り組んでいます。
- ◆日本はこれらの取り組みを通じて2024年までに全国の60%の地方公共団体がSDGsの達成に向け取り組むことを目指しています。



第2期「まち・ひと・しごと総合戦略」における地方創生SDGsのKPI

- ①SDGsの達成に取り組む地方公共団体の割合：60%
- ②SDGs未来都市選定数：210都市
- ③官民連携マッチング件数：1,000件
- ④地方創生SDGs金融に取り組む地方公共団体：100団体



◆自律し互いに良い循環になるようにしながら、地域課題に取り組んでいくことが必要です。

郡山から世界へ

郡山市の特徴

- ・こおりやま広域圏は福島県の中央部に位置し、中核市である郡山市を中心とする人口約65万人の経済圏を形成している。
- ・圏内面積は3,313km²で、生活利便性の高さや豊かな自然の両方が享受できる多様な地域構成を有している。
- ・全国規模で展開する企業が郡山市を中心に圏内に立地するほか、研究機関や大学等の拠出施設が圏内に多数立地。中心市である郡山市では、民間企業、各種団体、研究機関、大学等と連携し、気候変動適応をはじめとする将来課題の解決に向けた様々な取組を行っている。
- ・一方、福島県全体として急性心筋梗塞の死亡率が全国ワーストといった健康指標の悪化、「2025年問題」に対して、健康寿命の延伸や保健医療体制の拡充により対応する必要がある。

重要な地域課題と解決に向けた取り組み

【経済面の課題】

医療・健康産業の集積・振興

- <解決事業>
- 産業イノベーション事業
 - ①産官学金労言士の連携コーディネートによる新産業創出・関連産業集積
 - ②医工連携事業化コンサルティング（ふくしま医療機器開発支援センター等と連携）
 - 多彩な市民とともに進む新たな農業プロジェクト事業
 - ①IoT等の活用による農業の効率化
 - ②障がい者等の技術習得支援（農福連携）

【社会面の課題】

健康寿命の延伸、医療費の抑制

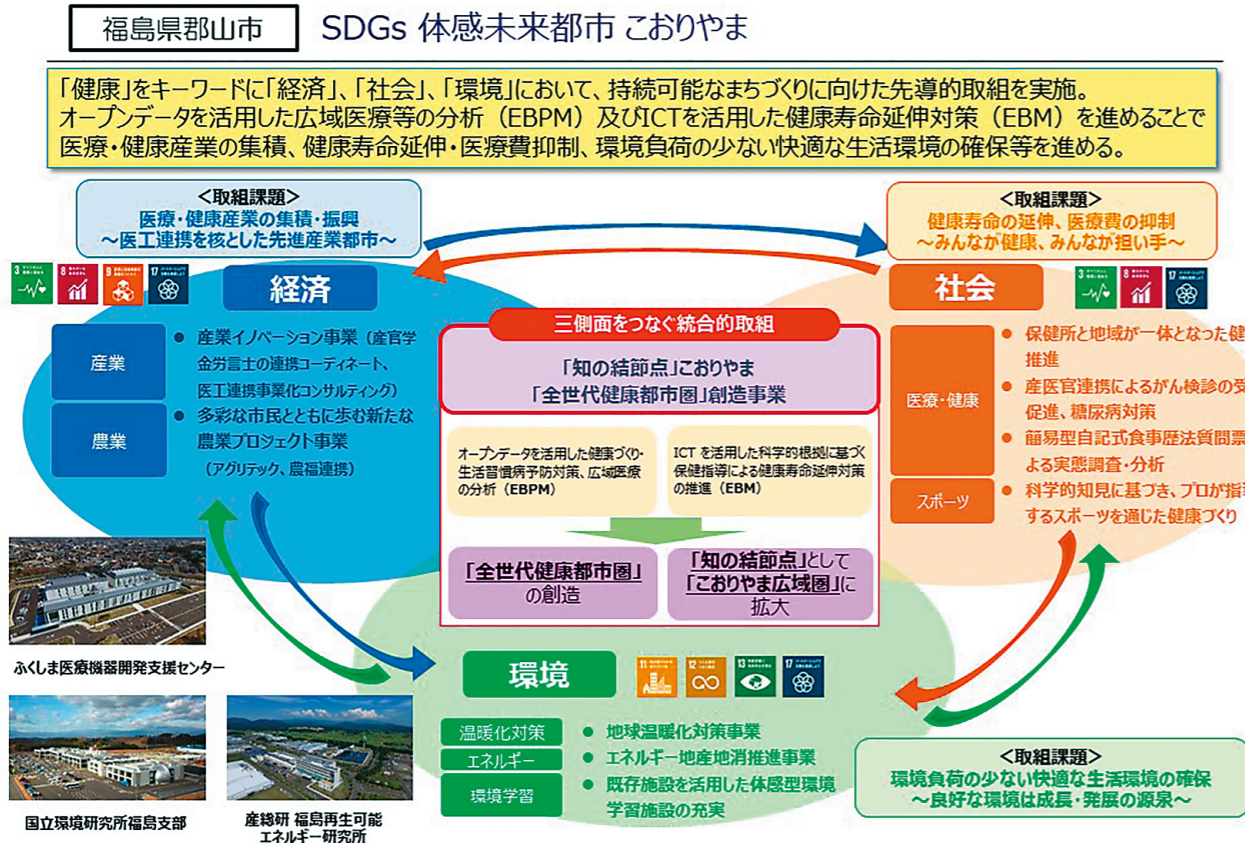
- <解決事業>
- 保健所と地域が一体となった健康推進
 - ①こおりやま生きいき健康ポイント事業
 - 産医官連携によるがん検診の受診促進、糖尿病対策の推進
 - 簡易型自記式食事履歴質問票（BDHQ）による実態調査・分析
 - 科学的知見に基づき、プロが指導するスポーツを通じた健康づくり

【環境面の課題】

環境負荷の少ない快適な生活環境の確保

- <解決事業>
- 地球温暖化対策事業
 - ①新エネルギー活用による温室効果ガス削減
 - ②気候変動適応計画の策定（国立環境研究所と連携）
 - エネルギー地産地消推進事業
 - ①地域内における再生エネルギーの活用
 - 既存施設を活用した体感型環境学習施設の充実

三側面をつなぐ統合的取組：「知の結節点」こおりやま「全世代健康都市圏」創造事業



- ◆オープンデータやICTを活用しながら、すべての世代の方たちが健康でいられるまちづくりを目指します。
- ◆医療・健康産業の集積、健康寿命延伸・医療費抑制、環境負荷の少ない快適な生活環境の確保等を進め、「経済」、「社会」、「環境」の三側面から「全世代健康都市圏」の創造を目指します。



『気候変動対応型SDGs未来都市』の実現

- ⇒法制・税制・財政、全ての制度設計を「気候変動対応型」に
- ⇒平時においてもICTなど未来技術を活用した災害対策の推進
- ⇒行政のデジタルトランスフォーメーション化（DX化）



地方創生SDGs国際フォーラム

2020年1月10日に開催された「地方創生SDGs国際フォーラム2020」に品川市長がパネリストとして登壇し、気候変動を前提とした社会システムへの変更の重要性を訴えました。



東北SDGs未来都市サミット

東北地方のSDGs未来都市5都市によるサミットが2020年1月16日に秋田県仙北市で開催され、「東北SDGs未来都市サミット宣言」並びに「気候非常事態宣言」がなされました。



こおりやまSDGsアワード

こおりやま広域圏内における「SDGs体感未来都市」の実現に向けた優れた取組を表彰し、SDGsの理解・普及を図るとともに、気候変動に対応する取組等を拡大していきます。

未来のために私たちができること

健康に気を使おう

●自分や家族が元気でいられるように、食事や運動に気をつけてみよう。

3 すべての人に健康と福祉を

性別を問わず平等に

●料理や洗濯など家のお手伝いをして、みんなが家事をできるようにしましょう。

5 ジェンダー平等を實現しよう

水を大切に使う

●水道の蛇口はきちんと閉めよう！
●水道の水がどこから来ているか調べてみよう！
●水の無駄づかいを止めよう。

6 安全な水とトイレを世界中に

こまめに電気を消そう

●使っていない照明はこまめに消そう。
●自然のエネルギーを使った発電方法について調べてみよう！

7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに

ごみを分別しよう

●プラスチックは資源になるので、きちんと分けて決められたごみの日に出しましょう。
●生ごみは乾かして、燃やしてから捨てるからしよう。

12 つくる責任 つかう責任

自然災害に備えよう

●地震や台風に向けて、保存ができる食べ物や防寒具を日頃から準備しておこう。
●避難場所について、日頃から家族と話しておこう。

13 気候変動に具体的な対策を

SDGsの理解・普及に向けた今後の主な取り組み

- ◆SDGsビジョンの策定
- ◆講演会・ワークショップ等の開催
- ◆ESD（持続可能な社会の担い手を育む教育）の推進（小学校でのSDGs学習等）
- ◆大学などの高等教育機関をはじめとする関係機関との連携強化

※イラストは福島工業高等専門学校生徒さんがデザインしてくれました。